

銅・アルミ

市況見通し

4月

銅

2月の伸銅品生産(速報値)は、前年同月比で6%増の6万3980ト。対前年同月比では2カ月連続の増加となった。

自動車向けを中心に伸銅品需要、特に銅条や黄銅条と棒が伸びている。銅条は2月としては過去最高の2008年の生産量を超えた。

万3195トで同14%増、黄銅棒が1万4804トで同5%増、黄銅管が8082トで同9%減。

2月の銅電線出荷量は同5・5%減の5万2000トで、うち国内が同5・2%減、輸出は同227・1%増の1307ト、銅スクラップが同11・9%増の7889トだった。電気銅は相場の急騰や内需回復により増加した。

銅輸入は、電気銅が同227・1%増の1307ト、銅スクラップが同11・9%増の7889トだった。電気銅は相場の急騰や内需回復により増加した。

前者は、バイデン大統領が3月31日に2兆ドル強のインフラ投資計画を発表。政府の権限を活用して米経済を再構築し、中国の影響を力拡大に対抗することから米景気はさらに上向くのではとみている。

銅スクラップ 景況予想

銅建値は100万円から104万円まで高値安定という中、流通在庫は発生も在庫もほとんどどの状態となっている。

需要面は半導体不足に伴う自動車需要が減少しているものの、高領空への中国機の侵入

品種別では銅条が2



橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート

4月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	9000~95000 ^{ドル}	横ばい
電気銅建値	102~112万円	強い
為替(1 ^{ドル})	109~112円 (1カ月間TTM)	円安

LME銅為替予想

今月は「米経済、景気対策」と「欧米中間の動向に左右される」。

アルミ

2月のアルミニウム生産量(板類・押出類合計)は同0・4%増の14万4694トとなり、2カ月連続で前年同月を上回った。生産量は板類が同1・3%増の8万9875ト、押出類が同1・1%増の5万4819トだった。

2月のアルミニウム生産量(板類・押出類合計)は同0・4%増の14万4694トとなり、2カ月連続で前年同月を上回った。生産量は板類が同1・3%増の8万9875ト、押出類が同1・1%増の5万4819トだった。

アルミスクラップ 景況予想

LME価格は2200ドルから2300ドルで高止まりしている。半導体不足により自動車生産が減少、それに伴う発生減からアルミスクラップの流通在庫は少ない。

需要面は半導体不足に伴う自動車需要が減少しているものの、高領空への中国機の侵入

需要面は半導体不足に伴う高値警戒感から、メーカー在庫は少ない状態となっている。

4月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ 現物後場買い	22000~2400 ^{ドル} (現物後場買い)	強い
スクラップ	据え置き~プラス5円 (前月最終価格より)	強い

輸入はアルミ新地金が同5・1%減の11万2036ト、アルミニウム合金が同36%増の9万1620ト、アルミスクラップが同18・8%減の475ト、アル

出が同17・2%減。銅輸出は、電気銅が同23・5%減の4万2241ト、銅スクラップが同10・9%増の3万410ト。電気銅は内需(自動車)低迷を受けて減少し、スクラップは内需回復により増加した。

値警戒感からメーカーは買いに慎重。ただメーカー在庫は気薄な状態。

2月のアルミニウム生産量(板類・押出類合計)は同0・4%増の14万4694トとなり、2カ月連続で前年同月を上回った。生産量は板類が同1・3%増の8万9875ト、押出類が同1・1%増の5万4819トだった。

アルミ輸出は、相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けて、去10年で最大の輸出量となった。

アルミ輸入は、国内ミ合金スクラップが同33・7%増の4782トだった。